

10 日ロ地先沖合漁業交渉

日本とロシアとの間では、昭和 59 年 12 月に成立した「地先沖合漁業協定」に基づき、毎年、操業条件等について日ロ漁業委員会において協議が行われ、そこで妥結となった操業条件により、相手国 200 海里水域内に入漁しています。

令和元年 12 月の日ロ漁業委員会第 36 回会議では、マダラの漁獲割当量は減少したものの、漁業者が強く要望していた漁業協力費がゼロとなったことに加え、1 月からの操業機会及び9万トンの漁獲割当量が確保されました。

(1) 合意内容

① ロシア 200 海里水域における日本漁船の操業条件等

ア. 相互入漁

区分	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
総漁獲割当量	63,455.9t	65,135.9t	65,000t	77,500t	90,000t
総 隻 数	546 隻	546 隻	546 隻	592 隻	592 隻
協 力 金	4億 1,814 万円	7億 4,965 万円	7億 4,980 万円	7億 871 万円	0 円

<主な魚種別の漁獲割当量>

魚 種	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
サ ン マ	53,020t	53,020t	53,020t	59,000t	70,927.4t
マ ダ ラ	1,108.8t	1,108.8t	1,108.8t	1,275.5t	810t
イ カ	7,309t	6,520t	6,188.25t	5,617.9t	5,814.25t
そ の 他	2,018.1t	4,487.1t	4,682.95t	11,606.6t	12,448.35t
計	63,455.9t	65,135.9t	65,000t	77,500t	90,000t

イ. 有償入漁

区分	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
総漁獲割当量	1,044.7t	1,062.2t	1,062.2t	1,062.2t	1,062.2t
総 隻 数	22 隻	22 隻	22 隻	22 隻	22 隻
入 漁 料	3,368 万円	4,132 万円	4,112.2 万円	4,112.2 万円	4,112.2 万円

<主な魚種別の漁獲割当量>

魚 種	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
サ ン マ	350t	350t	350t	350t	350t
マ ダ ラ	190t	190t	190t	190t	190t
イ カ	14t	16t	16t	16t	16t
そ の 他	490.7t	506.2t	506.2t	506.2t	506.2t
計	1,044.7t	1,062.2t	1,062.2t	1,062.2t	1,062.2t

② 日本 200 海里水域におけるロシア漁船の操業条件等

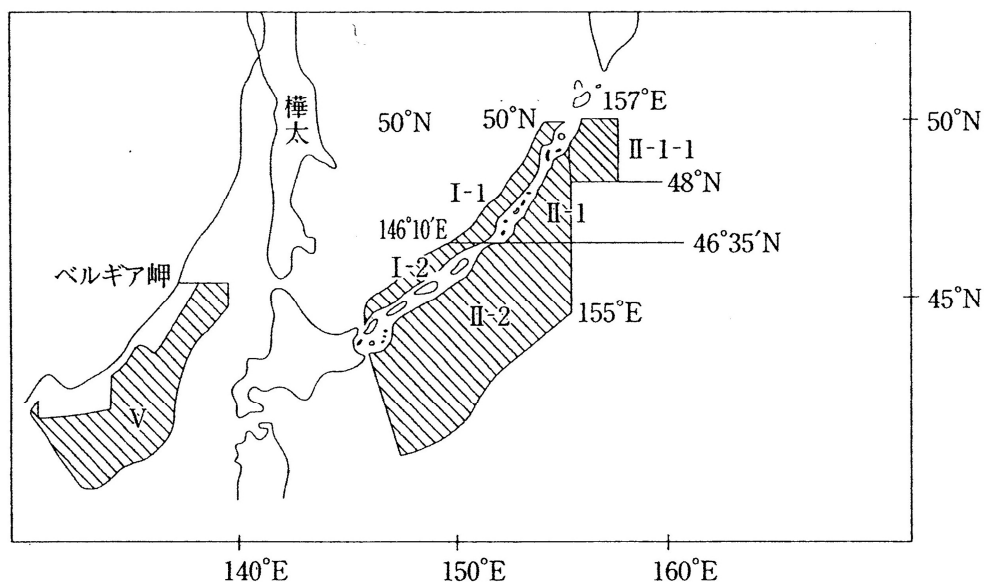
ア. 相互入漁

区分	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
総漁獲割当量	63,455.9t	65,135.9t	65,000t	77,500t	90,000t
総 隻 数	101 隻	89 隻	89 隻	89 隻	89 隻

<主な魚種別の漁獲割当量>

魚 種	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
イ ワ シ	27,005.9t	28,685.9t	45,000t	11,000t	23,500t
サ バ				51,500t	51,500t
イトヒキダラ	27,800t	27,800t	18,000t	15,000t	15,000t
サ ン マ	8,650t	8,650t	2,000t	—	—
計	63,455.9t	65,135.9t	65,000t	77,500t	90,000t

(2) 日ロ地先沖合漁業交渉操業海域図



I-1 区	千島 (オホーツク海側北)	底はえ縄
I-2 区	千島 (オホーツク海側南)	
II-1 区	千島 (太平洋側北)	中層トロール、底はえ縄、棒受け網
II-1-1 区		中層トロール、着底トロール、底はえ縄
II-2 区	千島 (太平洋側南)	底はえ縄、棒受け網
V 区	日本海	いか釣り

○有償入漁水域

II-2 区	千島 (太平洋側南)	着底トロール、中層トロール
--------	------------	---------------

資料:北海道水産林務部漁業指導部

注:II-1、II-1-1 区の中層トロール・着底トロールは、遠洋底びき網

II-2 区の中層トロール・着底トロールは、沖合底びき網